

自我

かつて 此岸は
社会と呼んでいた 対岸は
何と呼んでいたか それは覚えていない

レールは2つに
さらに4つに 8つに
分かれてゆく その先

此岸は かつて
秩序と呼ばれていた 対岸は
憧憬と呼んでいた 僕は

僕・・・
その一人称
車中に揺られる者

かつて あの夕陽は
夕陽ではなく 終焉でもなく
永遠の象徴だった

僕 という 一人称
その軌跡を抱えていた かつては
・・・今は？

水平線を中心にして
上下に広がるだけの空間
そんなものが海や空であろうものが

僕 という 一人称
その衝撃的な存在
それをなぜ置き去ることができたのか

そも 今 それは
どこに？
滑り込もうとするこの駅に？

かつて この男を

僕 と呼んでいた 今は
何と呼びうるのか
まさか、単なる「自我」とでも？

(2003.5.13)